

環境研究総合推進費戦略課題(S-11)

持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究

ー地球の限られた資源と環境容量に基づくポスト2015年開発・成長目標の制定と実現へ向けてー

平成25年度～平成27年度

累積予算額: 629,727,000円

慶應義塾大学大学院教授
S-11プロジェクトリーダー
蟹江憲史

プロジェクトの課題と研究開発目的

1. 2015年以降の開発・成長目標(Post-2015 Agenda)としてのSDGs及びその評価指標のオプション及び実施シナリオを、科学的根拠に基づいて提示し、世界レベル、地域レベル、日本をはじめとした国家レベル、さらにはローカルレベルやセクターレベルでのSDG設定に貢献する。
2. 資源・環境制約のもとでの21世紀型の持続可能な成長・開発のためのヴィジョンや方向性を科学的根拠に基づいて提示する。
3. 研究における環境(コミュニティー)と開発(コミュニティー)の融合
4. 国際的研究ネットワークを確立し、その中心となる拠点を構築する。
5. 成果を国際的なWSで発表、誘導する。

ENB委託

S-11

PL蟹江（慶應大）

サブテーマ1
全体統括及び目標・指標と
ガバナンスの総合的提示
慶應大 蟹江 憲史

サブテーマ2
持続可能な開発目標とその実現に資するボ
トムアップ事例の検討
東工大 阿部 直也

テーマ1
資源環境制約下の開発・成長の方向性と
目標及び効果的ガバナンスの提示
【統括班】
東京工業大学 蟹江 憲史

サブテーマ3
目標や指標の定量的オプションや
シナリオの提示
(株)イー・コンサル 榎原 友樹

サブテーマ4
資源・エネルギー・食糧・水等の複合目標及び
指標の検討
(独法)国立環境研究所 亀山 康子

テーマ2
資源環境制約の観点からの
目標と指標の提示
九州大学 馬奈木 俊介

テーマ3
開発の観点からの目標と指標の提示
東京大学 北村友人

テーマ4
持続可能な開発目標実現のための
ガバナンスの研究
(公財)地球環境戦略研究機関(IGES) 森 秀行

サブテーマ1
Beyond GDP目標と指標の提示
九州大学 馬奈木 俊介

サブテーマ2
資源・環境制約下での開発及び成長実
現のための目標や指標の提示
関西大学 鈴木 政史

サブテーマ3
地球システムからの制約の検討(生物
資源に焦点をあてた検討)
立命館大学 橋本 征二

サブテーマ4
地球システムからの制約の検討(鉱物
資源に焦点をあてた検討)
東京大学 村上 進亮

サブテーマ1
教育分野におけるポスト・ミレニアム
開発目標と指標の提示
東京大学 北村友人

サブテーマ2
保健・健康・衛生に関する分野における
ポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示
長崎大学 山本 太郎

サブテーマ3
経済開発分野におけるポスト・ミレニアム
開発目標と指標の提示
関西大学 春日 秀文

サブテーマ4
水、エネルギー等社会の存続に関する
領域におけるポスト・ミレニアム開発目
標と指標の提示
東京大学 鎗目 雅

サブテーマ1
持続可能な開発目標実施のためのマル
チレベル・ガバナンスのあり方の検討
IGES 森 秀行

サブテーマ2
国連を中心とした持続可能な開発のガ
バナンスの検討
国際連合大学高等研究所 山田 高敬

サブテーマ3
効果的資金メカニズムの検討
慶應義塾大学 小林 光
京都大学 森 晶寿

ENBチーム
タイミング・コンテンツ
へのアドバイス



国際共同研究チーム



ゲスト(例:ジェフ
リーサックス、国
連ワーキンググ
ループ共同議長
等)



Earth
System
Governance



コア研究グループ
(S-11研究分担者)



国内アドバイザリー
ボード・専門委員等
(推進費)



国際アドバイザリー
ボード

政策担当者
環境省・外務省・国連等

外部連携

各テーマ毎アドバイザー
(peer review、任意設置)

協力研究プロジェクト
IRF、Bhutan Project, WEF,
ICSU etc.

 
アジア開発銀行 (ADB)、
JICA、S-6、S-10等との連携



持続可能な開発目標（SDGs）設定への貢献



ターゲット設定は国連で画一的にせず、国やステークホルダーでの設定の余地を残すべきとのS-11研究成果が最終成果文書に反映



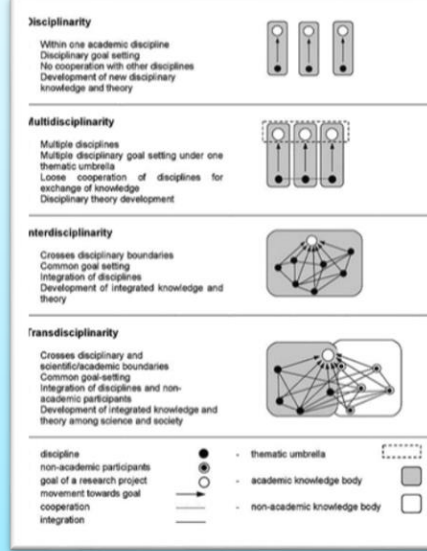
国連レベルのターゲットを直接国やステークホルダーに還元するモデル(アプローチ1)と、入れ子状にターゲット設定をする(国連レベル→地域レベル→国レベル→地域レベルと(数値)目標を還元)モデル(アプローチ2)とを提示

新たな研究手法への挑戦と成果ー超学際 transdisciplinarity

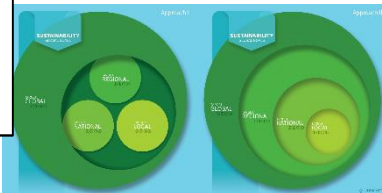


研究者、国連担当者、政府代表、共同議長等でのワークショップ(2014年2月NY)

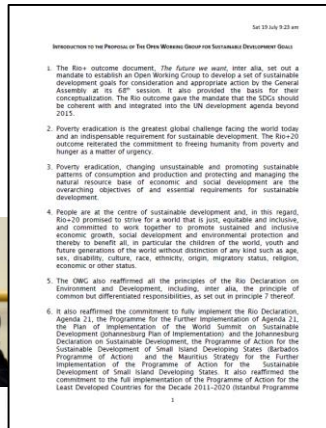
研究課題の設定、アウトプットの創出、実現プロセスで研究者と政策担当者・ステークホルダーが協働



議論内容の概念化、学術的根拠に則った提言策定・公表



成果文書
学術出版物



SDGsにかかる科学と政策とのインターフェイスに関するワークショップ (2015年6月19-20日、ニューヨーク)

- S-11のリーダーシップのもと、他のネットワークや機関と連携して開催
(共催: Earth System Governance Project of Future Earth、Future Earth、SDSN、JSTの支援)
- 参加者30名 (学界から15名、ステークホルダー (政府代表、国連職位、NGO代表等) 15名)
- 科学および科学的評価システム、SDGsの実施、フォローアップとレビュー、モニタリング過程での科学の役割に焦点を当てて議論。これを通じ、革新的アイディアの創出を狙う。
 - SDGsの科学と政策のインターフェイスにかかる制度設計についてのオプションを提示
- 参加した、共同議長(アイルランド)補佐、コロンビア政府代表等を通じて、交渉テキストに当該課題の重要性の指摘をインプット



「教育」

万人のための教育 (Education for All: EFA) と
持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable
Development: ESD) の連携の可能性

(1) EFAがESDに提供する新しい視点

ESDと「貧困や社会的疎外への対
処」・「ジェンダーエンパワメント」との
シナジーの強化

(2) ESDがEFAに提供する新しい視点

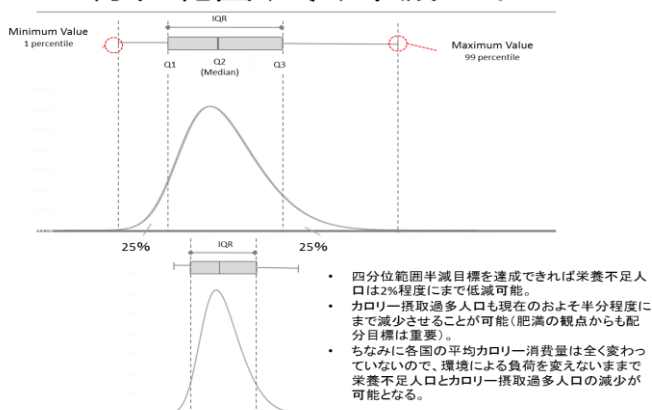
・教育の質や目的についての再認識
・持続可能な開発に有効な知識・価値観・
行動につながる多様な『リテラシーズ』
("Literacies")の習得

両者のシナジーによる問題解決領域(例)

エネルギー・気候変動
災害リスク軽減
持続可能な生産と消費
平和と人間の安全保障
都市化、移住
HIV/エイズ、健康問題
生物多様性
異文化・多文化理解・寛容
イノベーション 等持続可能な開発のための教育
(ESD)のモニタリング指標の提案4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、
男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様
性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可
能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

SDGs達成には国際・国内での 配分(格差)の問題を考えることが必要

四分位範囲(IQR)半減のイメージ



0-5歳児の肥満人口の推移(単位100万人)

	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020
開発途上国	20.7	22.4	25.0	28.9	34.7	42.0	49.9
先進国	6.2	6.3	6.4	7.1	8.1	8.8	9.5

2.4倍

1.5倍

DE ONIS, M., BLOSSNER, M. & BORGHI, E. 2010. Global prevalence and trends of overweight and obesity among preschool children. *Am J Clin Nutr*, 92, 1257-64

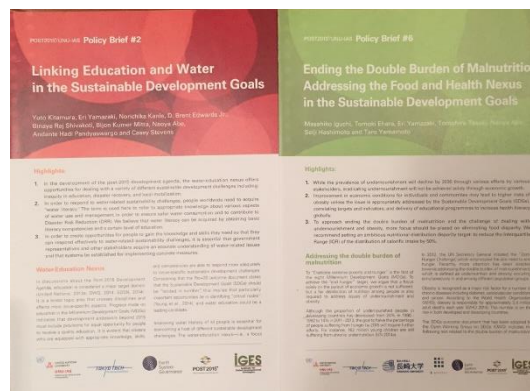
二重の障壁 (double burden)の問題

途上国での人口増加
先進国での高齢化

飢餓の問題
肥満の問題

同時解決のためには国際・国内で配分の問題を扱うことが不可欠
(経済成長のみでは二重の障壁の同時解決は不可能との試算結果)

目標10
各国内及び各国間の不平等を是正する



SDGs策定過程の分析

1. オープンな作業部会(OWG)の2／3はステークホルダーや研究者を招いた現状把握

- 科学と政策のインターフェイスが強化
- 実質ベースの議論が可能に

⇒ 結果として、通常的外交文書で使えないような(科学的)言語が成果文書に



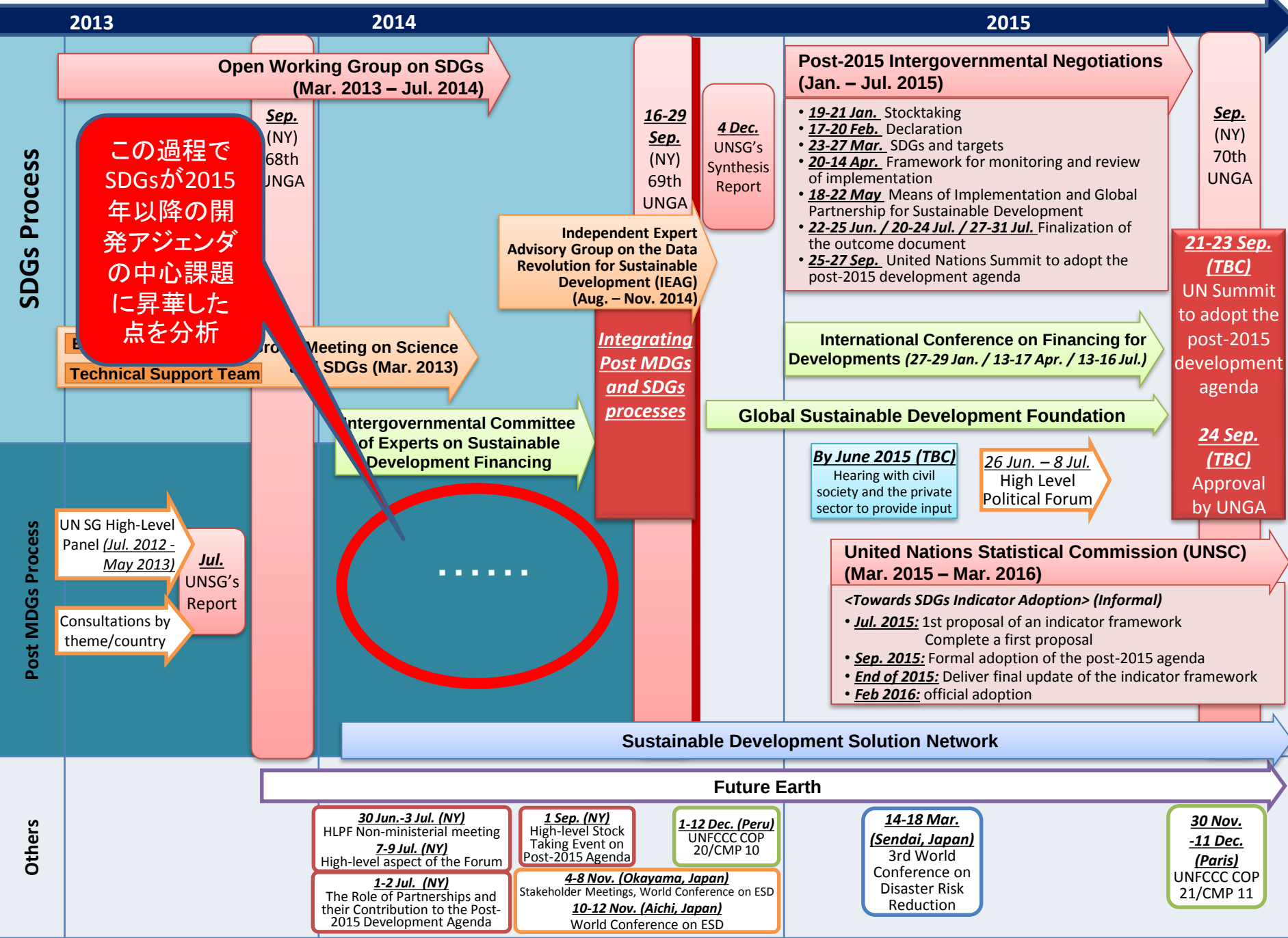
2. 「30の政府専門家」が70ヶ国によって共有

- 伝統的な交渉連合(coalition)がくずれ、実質的論議可能に

3. 共同議長(ケニア国連大使とハンガリー国連大使)の信頼に基づいたテキスト交渉

- 未決事項を括弧【】に入れるのではなく、全て議長預かりでの文書決定

プロセス全体を同時代的に分析



SDGs達成に向けた日本への処方箋



目標

国連のSDGsとの関連

貧困と格差社会	処方箋 1.1	公平で質の高い医療・介護・福祉サービスの確保																	
	処方箋 1.2	経済的・社会的格差に起因する出産障壁の撤廃																	
食料	処方箋 2.1	食料生産における環境負荷の低減																	
	処方箋 2.2	農産品の持続可能性情報へのアクセス																	
	処方箋 2.3	食料の安定供給と地方再生の実現																	
	処方箋 2.4	気候変動への適応と種子・遺伝子の保全																	
健康	処方箋 3.1	健康長寿命社会の実現																	
	処方箋 3.2	こころの健康の維持と薬物乱用の防止・治療の促進																	
	処方箋 3.3	感染症の発生・まん延の防止																	
	処方箋 3.4	公平で質の高い医療・介護・福祉サービスの確保																	
教育	処方箋 4.1	質の高い教育・訓練への公正なアクセスの推進																	
	処方箋 4.2	持続可能な開発のための教育（ESD）の推進																	
	処方箋 4.3	教育および社会におけるインクルージョンの推進																	
	処方箋 4.4	地球規模課題解決のための高等教育・研究分野の国際競争力の強化と国際協力の推進																	

SDGs達成に向けた日本への処方箋

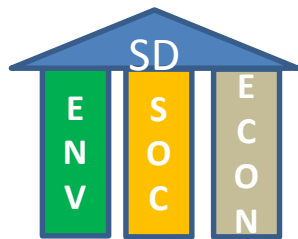
目標			国連のSDGsとの関連																		
ジェンダー	処方箋 5.1	男女間の就労機会や賃金格差の解消	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	処方箋 5.2	女性リーダーの活躍の拡大	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	処方箋 5.3	男女間の暴力の撤廃と人権の尊重	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
水	処方箋 6.1	あらゆる水リスクへの備えと対応	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	処方箋 6.2	健全な水循環の維持・確保・拡大と水質の改善	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	処方箋 6.3	水リテラシーの向上	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	処方箋 6.4	世界の水問題解決への貢献	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
資源・エネルギー	処方箋 7.1	効率的なエネルギー利用	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	処方箋 7.2	再生可能エネルギーの普及拡大	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	処方箋 7.3	エネルギーリテラシーの向上と、エネルギー自治	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	処方箋 7.4	資源生産性の向上	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
生物多様性	処方箋 8.1	生物多様性の保全	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
ガバナンス	処方箋 9.1	SDGs達成に向けた制度を構築する	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	処方箋 9.2	SDGs達成に向けて資金を動員する	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		



21世紀の持続可能な開発のヴィジョン ン提示



「持続可能な開発目標」で目指す「持続可能性」を定義



人間活動が地球の
行末を決める時代

将来の世代の
欲求を満たし
つつ、現在の
世代の欲求も
満足させるよ
うな開発

人類世 Anthropocene

人類世における「持続
可能な開発」の再定義



Development that meets
the needs of the present
while safeguarding Earth's
life-support system, on
which the welfare of
current and future
generations depends

現在及び将来の世代の人
類の繁栄が依存している
地球の生命維持システム
を保護しつつ、現在の世
代の欲求を満足させるよ
うな開発

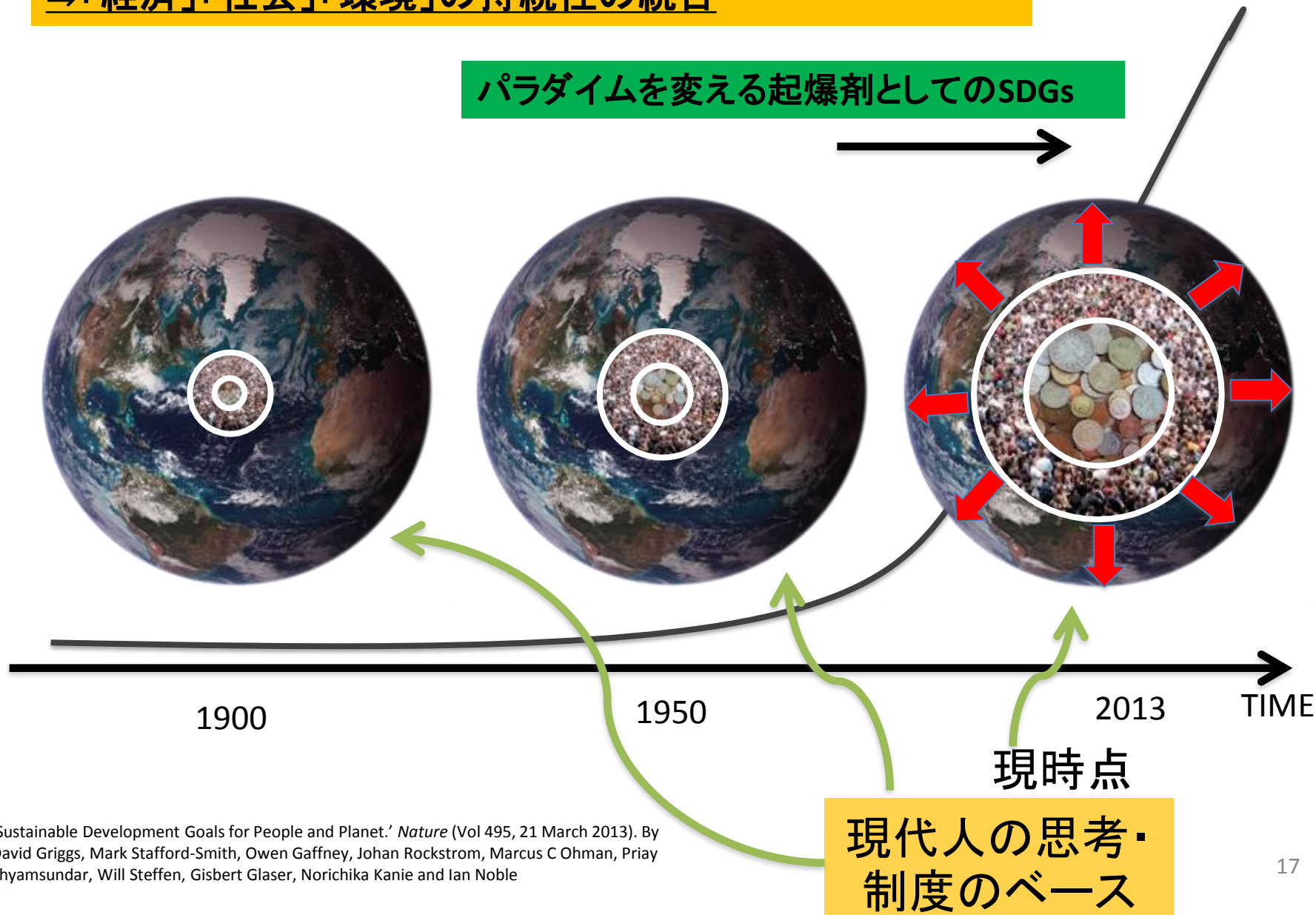


SDGsが目指すべき「持続可能な開発」

⇒地球システムの許容範囲内で開発・成長を続けること

⇒「経済」「社会」「環境」の持続性の統合

パラダイムを変える起爆剤としてのSDGs



'Sustainable Development Goals for People and Planet.' *Nature* (Vol 495, 21 March 2013). By David Griggs, Mark Stafford-Smith, Owen Gaffney, Johan Rockstrom, Marcus C Ohman, Priya Shyamsundar, Will Steffen, Gisbert Glaser, Norichika Kanie and Ian Noble

目標設定に起因するガバナンス - 新たなガバナンス戦略へ SDGs実施へ向けたガバナンスは 従来の環境ガバナンスを補完・強化する可能性を指摘

多国間環境条約 (MEAs: 例 - 気候変動枠組条約)

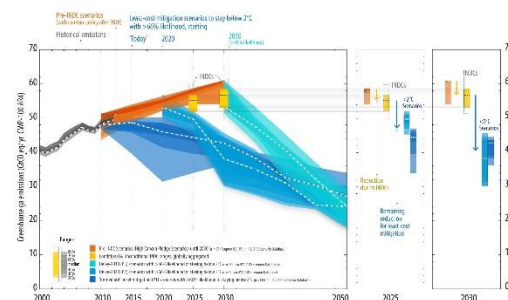
⇒ ルールに基づくメカニズム



→ 近年は困難に直面 (例えばコペンハーゲンCOP15)

→ できることをプレッジする積み上げ式傾向で
十分なアクションがとれず

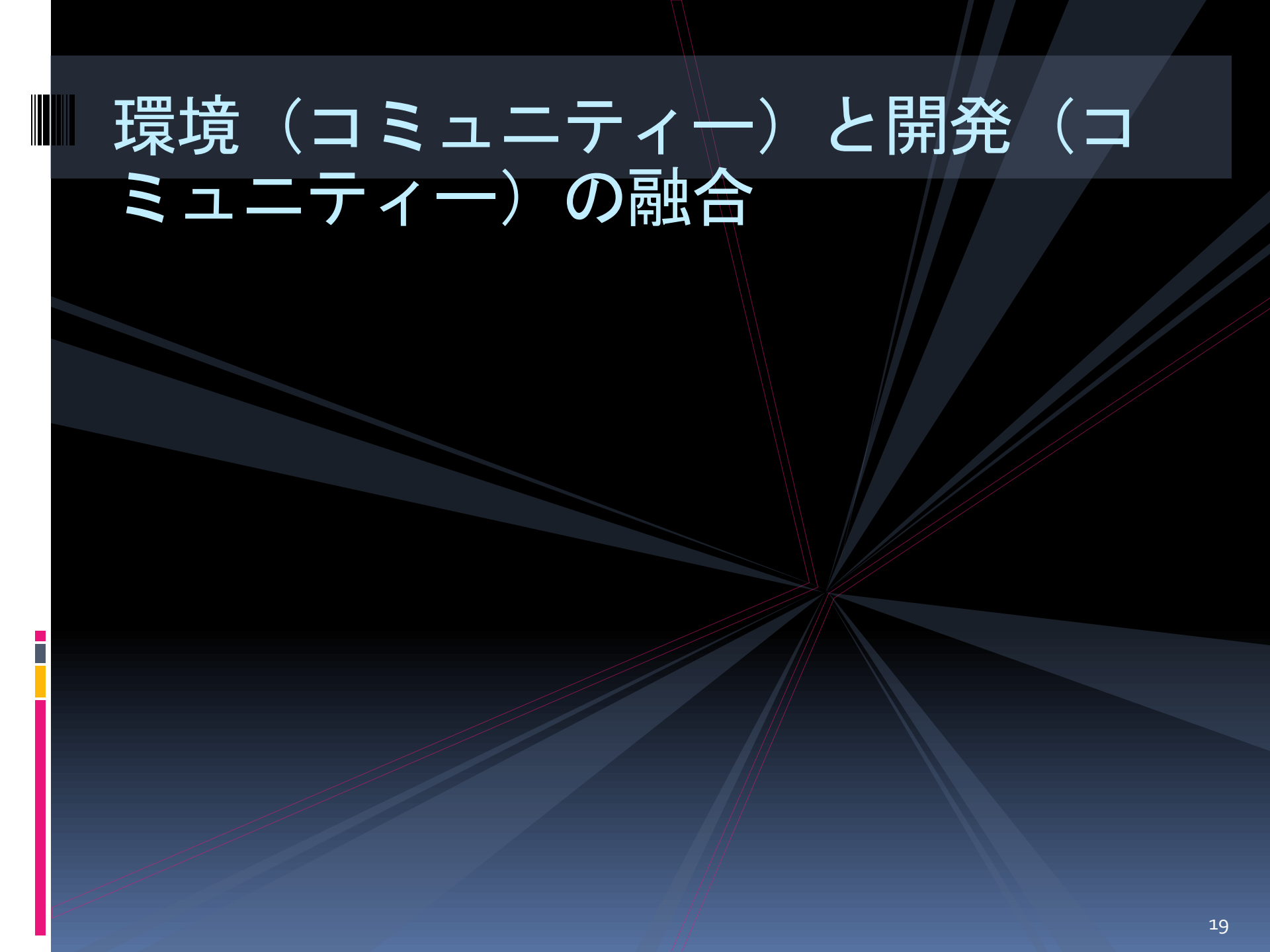
- ・ 野心レベルを向上
- ・ 統合的アプローチ推進
- ・ 条約に含まれない課題をハイライト(ex. SCP)



SDGs: 目標から始めて野心レベルの提示(aspiration)
実施メカニズムは なし
モニタリングと評価のみがメカニズム



環境（コミュニティ）と開発（コミュニティ）の融合



SDGsの位置づけの明確化

MDGsの残された課題の達成

目標と主なターゲット

 目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅	 目標5: 女性の健康の改善
1日1.25ドル未満で生活する人口の割合を半減させる - 飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる	妊産婦の死亡率を4分の1に削減する
 目標2: 初等教育の完全普及の達成	 目標6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止
すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする	HIV/エイズの蔓延を阻止し、その後減少させる
 目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上	 目標7: 環境の持続可能性確保
すべての教育レベルにおける男女格差を解消する	安全な飲料水と衛生施設を利用できない人口の割合を半減させる
 目標4: 乳幼児死亡率の削減	 目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進
5歳未満児の死亡率を3分の1に削減する	民間部門と協力し、情報・通信分野の新技術による利益が得られるようにする

※ロコは「特定非営利活動法人ほっとけい」世界のまじしきが作成したもの。

地球システムの 限界からもたらされる課題



社会的な持続可能性 (衡平性、公平性等)



毎年のシンポジウムをBeyond MDGs Japan(開発系シンクタンク・NGOs等のコンソーシアム)と3年間共催

POST 2015
Sustainable Development Goals

環境研究総合推進費S-11
Beyond MDGs Japan
合同公開シンポジウム

ポスト2015年開発アジェンダ —
持続可能な開発目標 (SDGs) と
ポスト・ミレニアム開発目標 (MDGs) の統合に向けて

2014年
1月17日(金) 13:00~18:00

イイダインフォメーションセンター 4F Room A
〒100-8302 東京都千代田区千代田1-1-1 千代田国際会議場

参加費無料
参加申込締切: 1月14日(火)

http://www.post2015.jp/sympo-2014

環境研究総合推進費S-11・Beyond MDGs Japan一般公開シンポジウム

持続可能な開発目標(SDGs)と
ポスト2015年開発アジェンダ
— 国際論議の現状と実施に向けた課題 —

■基調講演: ポストMDGsとグローバル・ガバナンス
■参議院議員/東海大学教授 武見 敬三
■持続可能な開発目標 (SDGs) をめぐる国際動向とS-11からの提案
東京工業大学大学院准教授 堀江 孝史
■パネル討論1:
ポスト2015年開発アジェンダへの示唆 — 科学からの声と政策
■パネル討論2:
実施はどうするか? 日本が何をすべきか?

2015年
1月16日(金) 13:00~18:00
国連大学3階 ウ・タント国際会議場
東京都渋谷区神宮前5-53-70
参加費無料

http://www.post2015.jp/sympo-2015

POST 2015
Sustainable Development Goals

United Nations University
UNITED NATIONS UNIVERSITY
UNHCR
Beyond MDGs Japan

環境研究総合推進費S-11・Beyond MDGs Japan
一般公開シンポジウム

2030年持続可能な発展目標:
日本と世界の変革に向けて

2016年
1月15日(金) 13:00~18:00
国連大学・ウ・タント国際会議場

参加費無料
参加申込締切: 1月12日(火)

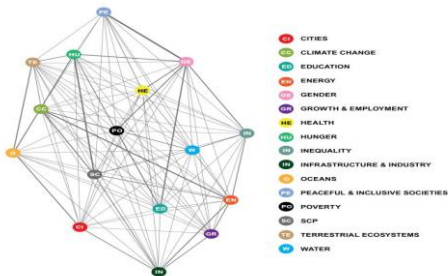
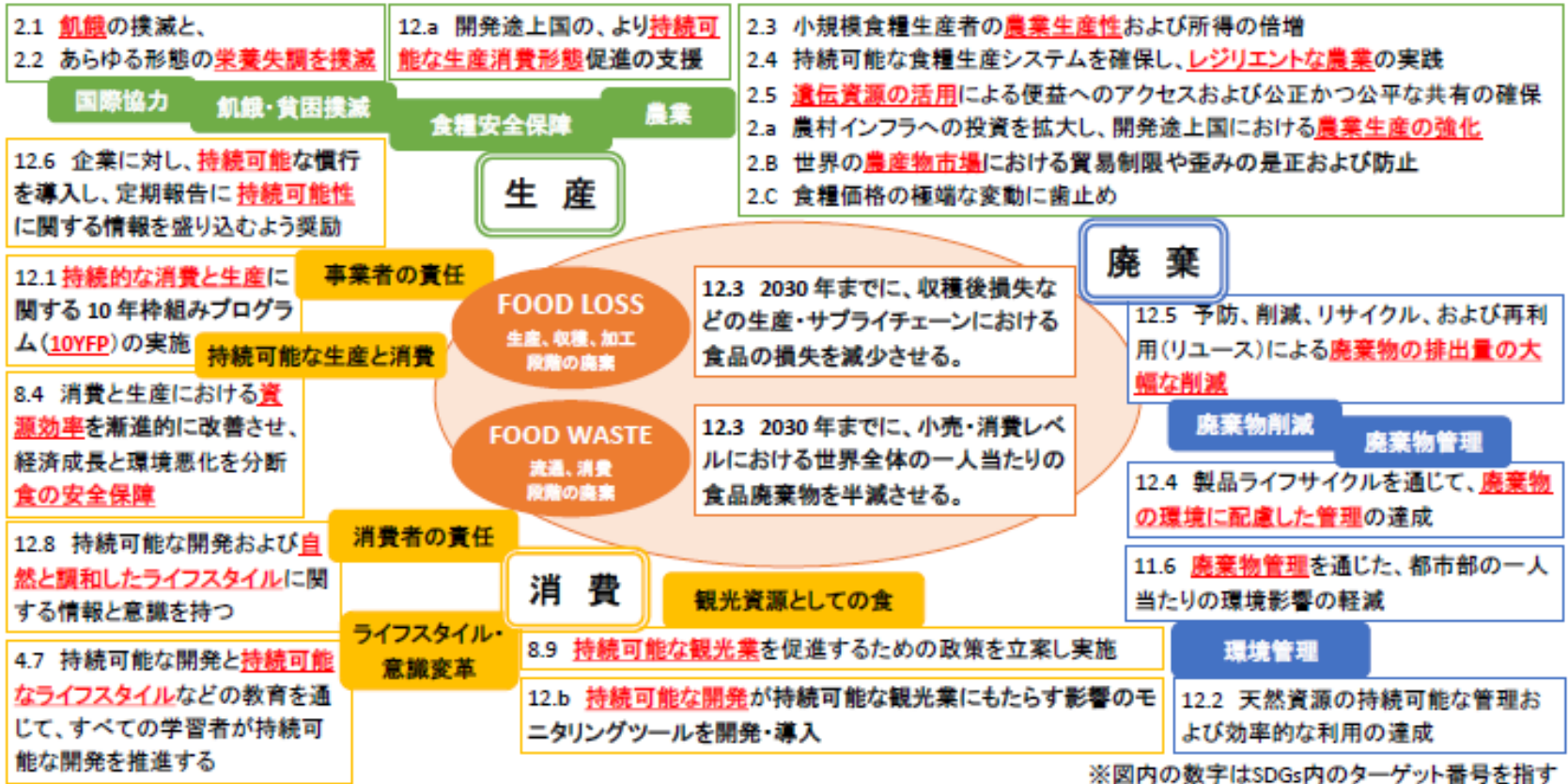
http://www.post2015.jp/sympo-2016

POST 2015
Sustainable Development Goals

United Nations University
UNITED NATIONS UNIVERSITY
UNHCR
Beyond MDGs Japan



具体的課題解決には多くのSDGsが相互に関連していることを提示



例：食品問題(食料ロス・食品廃棄物等)とSDGs



国際的研究拠点の確立と成果発表

成果公表



Nature等での
成果公表



IISD Earth Negotiations Bulletinとの協働

<http://sd.iisd.org/post2015-update/>



futureearth
research for global sustainability

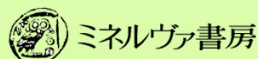
<http://sdg.earthsystemgovernance.org/>

国際共同・協働・連携

成果本出版
MIT Press



成果本出版
ミネルヴァ書房(予定)



政策への貢献



国連経済社会局
専門家会合への参加

Inclusive Wealth Report 執筆



ポリシーブリーフの公表、
OWG、国連等でのセミナー開催



日本でのSDGs実施に向けた
提案・啓蒙活動

International Institute for Sustainable Development (IISD)との連携

Post-2015 Policy & Practice
A Knowledgebase of UN and Intergovernmental Post-2015 Development Agenda Activities

iisd International Institute for Sustainable Development / Institut international du développement durable

fb | RSS | iCal | POST2015-L | POST-2015 UPDATE | LATEST NEWS | ANNOUNCEMENTS | ABOUT/TEAM | CONTACT | HELP & FAQ

You are HOME

Subscribe to POST2015-L
Visit POST2015-L Listserv | Learn More

Search

Categories
< Search Posts by Category >

Archives
< Search Posts by Date >

IISD RS Coverage of the Sixth Session of the Open Working Group (OWG) of the UN General Assembly (UNGA) on Sustainable Development Goals (SDGs)
9-13 December 2013 | UN Headquarters, New York, United States of America

Post-2015 Development Agenda Calendar

January 2014						
Mo	Tu	We	Th	Fr	Sa	Su
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

View All Upcoming Events
Post-2015 iCalendar
Subscribe | Learn More

Daily News | Latest News - Actors | Latest News - Issues

OWG Takes Up Climate, Cities and SCP | **HLPF Agrees on Theme, Meeting Dates**

Funding for Post-2015 Policy & Practice has been provided by the **Project on Sustainability Transformation beyond 2015 (POST2015)**, funded by the Japanese Ministry of Environment, and by the **Swiss Agency for Development and Cooperation Global Program Climate Change**

POST2015
Project On Sustainability Transformation beyond 2015

Schweizerische Eidgenossenschaft
Confédération suisse
Confederazione Svizzera
Confederaziun svizra
Swiss Agency for Development and Cooperation SDC

Post-2015 Policy & Practice is a knowledge management project for international activities related to the post-2015 development agenda. We began our work on the post-2015 development agenda in 2012. This knowledgebase is managed by the International Institute for Sustainable Development (IISD) Reporting Services, which is fully responsible for the content posted on Post-2015 Policy & Practice. Information on United Nations activities is provided in cooperation with the UN system agencies, funds and programmes through the United Nations System Chief Executives Board for Coordination (UN CEB) Secretariat

UNITED NATIONS SYSTEM
CHIEF EXECUTIVES BOARD
FOR COORDINATION

- ポスト2015年開発目標設定に関する情報を追跡し、既存のオンラインナレッジベース「Policy & Practice」にインプットするとともに、同Knowledgebaseを通じてS-11の認知度を高めた。
- ポスト2015年開発アジェンダに関連する国際的な持続可能な開発コミュニティ向けのメーリングリスト「POST 2015-L」を作成し、ポスト2015年及びSDGsに関する活動に関連する最新情報(ニュースレター)をメーリングリストにて配信した。
- ポスト2015年開発アジェンダに関するイベントのためのオンラインカレンダー「iCal」の管理及び定期的なアップデートを行った。

多様な成果普及活動



「国民との科学・技術対話」の一環としてシンポジウムやワークショップを開催(東京、長崎、金沢、愛媛、神戸、京都、北九州等)

「POST2015×アフター・アース 国連にこどもの声を届けるプロジェクト『1000年後の地球を守るために、今できること コンテスト』の実施(ソニー・ピクチャーズエンタテインメントの映画「アフター・アース」とコラボレーションによる、小学生を対象とした作品コンテスト)

PL等によるプロジェクト全体の講演・発表等:60件余例)

- ・「2030年目標実施のためのガバナンス」、『持続可能な開発目標(SDGs)とパートナーシップ』~これからの企業CSRにおけるグローバルアジェンダにて基調講演(2015年12月7日)
- ・「2030年持続可能な開発目標と国際環境ガバナンス」、『日本UNEPフォーラム2015 設立総会』にて基調講演(2015年11月17日)
- ・『持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2015』にて講演(2015年11月15日) 他多数